

## ベトナムの花弁栽培を高度化

## オグラ金属「LED電照」を利用

## SDGS エネルギーなど3項目で支援

オグラ金属㈱(小倉勝興社長)は、昨年8月、JICA(国際協力機構)の中小企業・SDGsビジネス支援事業に採択され、今年2月、JICA(国際協力機構)と正式に契約を結んだ。

このたびはベトナム中部のラムドン省タラット高原にて、同社の発光ダイオード(LED電照機器を使った「タラット高原花卉栽培

培技術高度化にかかる案件化調査」を開始した。

本調査は、今年2月から1年間かけて実施される。ベトナムの官民と協力して試験栽培を行い、日本と環境の異なるベトナムでも花卉の生育制御や均一化が可能であることを調査し、ビジネス展開に向けた具体的な検討を進める。調査終了後は、同社製品のベトナムでの販売を開始し、

国連の定めるSDGsゴールのうち、以下の3つのゴールへの貢献を目指す。

①エネルギー・LED電照の導入・普及により消費電力を削減する。

⑧経済成長・雇用・高付加価値農産物の生産およびコスト低減により農家の収益を向上させる。

⑨インフラ・産業・植物生育特性に合わせた特定波長のLED電照新技術及び将来的なロボット・AI技術の導入も想定すること

で、ベトナム国ラムドン省政府が推進する「スマート農業」の実現に貢献する。

同社は2009年から栃木県農業試験場と「新たな省エネ光源(LED)を利用した花卉電照技術の確立」をテーマとする共同研究を行い、花卉の出荷調整等に効果的なLED電照システムを開発した。同社のLED電照技術の強みは、単に消費電力を減らすだけでなく、キクの花芽分化抑制に効果のある特定の波長を最適かつ均一な照射を可能とすることで、すでに栃木県内の農家や農業法人、大学などで実用化されている。

小倉乃里子実行責任者は「国のプログラムとして責任を持って、次世代のために持続可能な社会経済に寄与するため、中小企業でも積極的に責任を果たしていきたい」と話していた。



ベトナムラムドン省人民委員会で